

**1. 科目コード**

1295

**2. 科目名**

システムアーキテクチャ特別実験 (System Architecture Special Experiments)

**3. 担当教員**

平石 輝彦 (Teruhiko Hiraishi)

**4. 開講期**

春2期

**5. 科目の目的・概要**

取得者(顧客)と供給者(開発者)に分かれてロールプレイを行うにより、「情報システムアーキテクチャ」の知識と技術に基づく実践的な能力を身に着ける。

**6. 科目の学習目標**

- (1) 取得者としてテーマを設定し、要求を決定する
- (2) 取得者としてRFP(Request for Proposal)を開発する
- (3) 供給者として要求定義書を開発する
- (4) 供給者としてシステムアーキテクチャを開発する
- (5)
- (6)

**7. 本学の教育目標と科目の学習目標との対応**

教育目標		学習目標	
高度ICT スキルの修得	基礎的素養 専門知識および業務応用力	(1), (2), (3), (4)	
人間力 (=探究力) の修得	自ら強みを磨き続ける力 自ら社会における 課題を発見し、 解決する力	(1), (2), (3), (4) (1) (1), (2), (3) (2), (3) (3), (4)	
	社会人基礎力	前に踏出す力 考え方 チームで働く力	(1), (2), (3), (4) (1), (2), (3) (1), (2), (3), (4)
職業倫理の修得			

**8. 履修要件(前提科目)**

システムアーキテクチャ特論 (Information System Architectures)の学習目標に到達していること

**9. 教科書**

なし

**10. 参考書**

なし

**11. 評価方法と配点**

学習目標	達成度評価方法と配点					
	期末試験	小テスト	レポート	発表	成果物	その他
(1)			○	○	○	
(2)			○	○	○	
(3)			○	○	○	
(4)			○	○	○	
(5)						
(6)						
配点			30	30	40	

## 12. 備考

本コースは、取得者(顧客)と供給者(開発者)の両方の役割をプロジェクトチームとして演じることで実践的能力を獲得することを目的としています。

そのため、チームディスカッションやプロジェクトマネジメントを通して、学生の実践力を高めるだけでなく、ファシリテーション、ネゴシエーション、プレゼンテーション能力の向上を図ります。

## 13. 授業計画

(注)授業計画は、あくまでも予定であり、実施時に、適時、追加・変更・修正等が生じる場合があります。

### 第1回 (オリエンテーション)

(講義と演習、90分)

コースの概要を理解する

- (1) オリエンテーション
- (2) 開発プロセスの流れ
- (3) アーキテクチャとは
- (4) 発表

### 第2回～第3回 (テーマの決定)

(講義と演習、2 \* 90分)

取得者(顧客)として事例を参照することにより、供給者(開発者)に発注するテーマを決定する。

- (1) ケーススタディを読む
- (2) RFP(
- (3) 課題の確立とシステムの目的の明確化
- (4) 演習(取得者と供給者)
- (5) 発表

### 第4回～第5回 (要求分析 (1))

(講義と演習、2 \* 90分)

供給者(開発者)としてステークホルダを分析し、課題を確立し、システムの目的を明確にする。

- (1) 要求定義の概要
- (2) ステークホルダ分析
- (3) 課題の確立とシステムの目的の明確化
- (4) 演習(取得者と供給者)
- (5) 発表

### 第6回～第7回 (要求分析 (2))

(講義と演習、2 \* 90分)

供給者(開発者)として要求整理シートを作成した後、要求定義書を作成する。

- (1) 要求整理シートの作成
- (2) 要求定義書の作成
- (3) ファシリテーションとネゴシエーション
- (4) 演習(取得者と供給者)
- (5) 発表

### 第8回～第9回 (アーキテクチャ設計 (1))

(講義と演習、2 \* 90分)

供給者(開発者)として、供給者(顧客)から入手したRFPに基づき、アーキテクチャドキュメントを作成する。

- (1) アーキテクチャ設計
- (2) モデルの概念
- (3) 機能ブロック図
- (4) ユースケース図
- (5) 演習(取得者と供給者)
- (6) 発表

---

第10回～第11回(アーキテクチャ設計(2))

(講義と演習、2\*90分)

供給者(開発者)として、供給者(顧客)から入手したRFPに基づき、アーキテクチャドキュメントを作成する。

- (1) アクティビティ図
  - (2) クラス図
  - (3) 演習(取得者と供給者)
  - (4) 発表
- 

第12回～第13回(アーキテクチャ設計(3))

(講義と演習、2\*90分)

供給者(開発者)として、供給者(顧客)から入手したRFPに基づき、アーキテクチャドキュメントを作成する。

- (1) ステートマシン図
  - (2) データフロー図
  - (3) 演習(取得者と供給者)
  - (4) 発表
- 

第14回(開発計画の作成)

(講義と演習、90分)

講義の終わりに、各チームで以降の演習の活動計画を作成する。

- (1) 要求定義書のレビュー
  - (2) 開発プランの作成
  - (3) 演習(取得者と供給者)
  - (4) 発表
- 

第15回～第29回(演習)

(演習、15\*90分)

各チームは自ら作成した要求分析とシステムアーキテクチャ設計の開発計画に基づき、取得者と供給者の役割を担当する。

- (1) 供給者は取得者のRFPに基づき、要求分析結果に基づく成果物を開発する。
  - (2) 供給者は供給者に対して進捗状況の報告を行う。
  - (3) 取得者は必要に応じて、供給者も質問に対応する。
  - (4) 発表
- 

第30回(要求分析とシステムアーキテクチャに関する討議)

(講義と演習、90分)

要求分析とアーキテクチャ設計の課題とその解決策について討議する。

- (1) 課題と解決策の討議
- (2) 最終レポート